

## 西嶋の道祖神マップ



〈文字道祖神〉碑の表面から「道祖神」の文字が読みとれる。上地区旧国道脇。



〈丸石道祖神〉丸石の台の扇のなかに「道祖神」の文字が刻まれている。和紙の里。



〈双体道祖神〉男女の姿をした2体が見てとれる。下地区旧国道の脇。



上地区道祖神前での獅子舞奉納



【道祖神】道や辻(十字路)、村の境などにまつられ、集落に入る悪霊や疫病を防ぐ神、道の神、また、縁結びの神、農作物を守る神としても信仰されていた。県内における道祖神の形状は、次のように分類できる。

- 丸石道祖神 県内で1番多く、石は1つか、または複数。丸いものに神霊が宿るといふ古代人の信仰も関係しているとみられている。
- 文字道祖神 碑の表面に“道祖神”などの文字を刻んだ型。
- 双体道祖神 男女の姿をした双体型。県内では市川三郷町、北杜市などに多く見られる。

【小正月】毎年1月の半ば頃に行われる旧正月の風習は、今も各地に根強く残っている。旧正月…つまり旧暦の正月を十四日正月、或いは小正月とも称し、西嶋をはじめ各地に道祖神の祭りや獅子舞が伝承されてきた。

◇その「十四日正月」の呼び名は、暦が太陽暦に移行したことに起因する。

◇明治初期まで用いられた月の巡りを基準とする太陰暦は、新たな年に初めて満月となる日…つまり1月15日が「正月」であった。この日を「望の正月」とか「花正月」と呼ぶ地方もあるという。

◇明治五年に太陽暦へ移行して以来、新暦の1月1日を「大正月」と呼び、旧暦の正月は「小正月とか旧正月、十四日正月」などと、新暦の正月と区別して呼ばれるようになった。(笠井元洋氏著作「西嶋の十四日正月余話」からその一部を引用して掲載しました。)